

所属長	所属科長	事務(局/部)長
		

令和4年 4月 5日



理 事 長 殿

学 長 殿

令和3年度“オール近大”新型コロナウイルス感染症
対策支援プロジェクト研究報告書

標記の件に関しまして、別紙のとおり報告いたします。

また、本研究報告の内容は、近畿大学学術情報リポジトリ (KURepo) に公開する旨、承諾いたします。

1. カテゴリー	<input checked="" type="checkbox"/> 研究 <input type="checkbox"/> 開発・提案 /カテゴリーNo 24
2. 企画題目	オンライン講義における学修意欲の測定と講義手法に関する研究・提案

研究代表者

所 属 : 経営学部

職・氏名 : 教授 布施 匡章



令和3年度“オール近大”新型コロナウイルス感染症 対策支援プロジェクト研究報告書

企画題目	オンライン講義における学修意欲の測定と講義手法に関する研究・提案
研究者所属・氏名	研究代表者：布施匡章 共同研究者：藤本和則、佐々木俊一郎、マルデワ・グジェゴジュ

1. 研究、開発・提案 目的及び内容

本研究では、大学における教育の質に着目し、オンライン講義と対面講義の学修効果の差を測定し、それぞれの特性や効率性の面からの講義の方法や実施形態を提案する。
ただし、2021年度も通年でほぼオンライン講義のみであり、厳密な比較はできないままである。

2. 研究、開発・提案 経過及び成果

(1) アンケートの実施

2021年4～5月と2020年10～11月の2度、経営学部・経済学部生に対してアンケートを実施した。それぞれ1699、1350の標本が得られた。

(2) アンケートの結果：幸福度

- 幸福度の減少は特に2年生において顕著であった。2020春入学の学生は2021年春時点でも幸福度は他学年に比べて有意に低いままであったが、2021秋アンケートではある程度の回復を見せた。これは人間関係の満足度の減少が主たる原因と考えられ、秋には語学等の対面授業が始まったためではないかと考える。
- 学生の幸福度に影響する要因は、男性の方が女性よりも低い。自由に使える時間、自由に使えるお金、達成したい目標、LINEの友人数、親友の数、1週間に撮影した写真枚数、恋人がいる、と、幸福度と正の相関がある。
- 学生の幸福度を学業満足度、人間関係、健康状態、経済状況のそれぞれで相関を見ると、2020年以降では経済状況が大きく関わるようになっており、コロナ禍にあって、家庭の経済状況やアルバイトの状況が学生の幸福と密接に関わるようになっていくことが分かる。
- 卒業時の大学で得た財産は、友人と知り合えたことと学歴、知識。

(3) アンケートの結果：学業満足度

- 学業満足度についても、2020春入学の学生は顕著に低かったが、2021秋のアンケートで結果ではある程度の回復を見せた。
- 学業満足度の要因は、2020年以前では単位の取得数や落単位数と関係していたが、2020年度以降では関係がなくなり、「授業が楽しいかどうか」が大きなウェイトを占めている。この点がオンライン講義の重要性である。

(4) オンライン講義による成績の変化

- 2019年度と比較して、2020年度以降の年度別平均点と取得単位数は増加している。全学年平均点で約5点上がり、取得単位数も1上がっている。これはオンライン講義によって期末試験が実施できなかったことと、課題レポート等の頻出によって理解が深まったこと等が考えられる。

3. 本研究と関連した今後の研究、開発・提案 計画

コロナ禍におけるオンライン講義等の学修環境・生活環境の変化が、学業満足度や成績へ与える変化をさらに分析する。また、どのようなカテゴリーの学生が学業満足度や幸福度がどの程度減少しているのか、数値としてより詳細に示す。

次年度以降も同様のアンケートを実施し、アフターコロナにおける学生の学業満足度や幸福度を高めるためにオンライン、対面を併用した新たな学修環境を提案する。

4. 研究成果の発表等

発表機関名	種類(著書・雑誌・口頭)	発表年月日(予定を含む)
近畿大学経営学部	雑誌	2022年度
行動経済学会	口頭	2021年12月11日
日本テスト学会	雑誌	2022年度

5. 研究、開発・提案 課題の成果発表等

未定